

近況便り

はじめに

今年のパリオリンピックは、開会式から世界中の注目を集めました。光の都パリを象徴するセーヌ川での壮大な船上パレードは、オリンピック史に新たな1ページを刻むものになりました。日本代表選手たちは、この歴史的な舞台上で素晴らしいパフォーマンスを見せてくれ、金20個、銀12個、銅13個、合計45個のメダル獲得は、大いなる感動を与えてくれました。

さて、2024年度、当基金は5月の選考委員会において新規10名、継続44名の合計54名(内外国人留学生3名)の採用を決定しました。6月には、奨学金支給決定書交付会を開催し、全国各地から21名参加いただきました。また、9月には、工場見学会を実施し、10名参加いただきました。

今回の近況報告は7月初旬から8月初旬にかけて定期試験の時期にもかかわらず、54名全員から提出いただきました。少しでも他の奨学生の近況を知り、相互理解の役に立てればと思います。忙しい勉強や研究の合間に、ご覧ください。また、昨年度で当基金の奨学生を終了した皆様からのメッセージを最後に載せていますので是非お読みください。



早稲田大学
先進理工学部 2年

この度、貴財団の奨学生としてご採用頂き誠に有難うございます。

学業に邁進する一方、迫りくる学費や生活費捻出すべくアルバイトとの両立の困難さに時に絶望感を抱く事もありましたが、採用のご連絡を頂き希望の光が見え安堵と喜びを感じました。感謝の気持ちを忘れる事なく、夢に向けて進んで参りたいと思います。

私は現在学部二年生に所属しています。将来、有機合成化学分野で金属触媒反応を用いた研究を行い、癌患者に負担のない治療法確立に貢献したいと考えています。その為、現在は希望の研究室に入れる様日々邁進しております。怒涛の如く過ぎ去った一年時と比較すると大分自分のペースが掴めてきた様に思います。相も変わらず多忙ではありますが、膨大な課題をこなしながら、アルバイトやボランティア活動と両立し非常に充実した日々を送っています。私は大学まで片道数時間かかる所に住んでいる為常に終電を気にしながら過ごす必要があ

ります。先日は課題に集中するあまり終電を逃し近隣の公園で野宿する経験をしました。翌朝、大学のトイレで身支度を整えていたところ、早朝にも関わらず沢山の修士、博士課程の先輩方が校内におられその熱意に感動すると同時に数年後の自分を見ている様で身が引き締まる思いを致しました。諸先輩方から聞いた所、秋学期以降は実験科目も増え更に忙しくなると伺っていますが、貴財団のご期待に沿える様、これからも一生懸命頑張って参ります。



信州大学
工学部水環境・土木工学科 3年

2023年9月から開始した1年間のマレーシア留学もまもなく終わりを迎え、7月末に帰国を控えている。留学では、日本人留学生と共に日本文化交流イベントを企画し、延べ120人以上の学生を動員し、多くの人に日本の魅力を伝えられたことを意義深く感じている。また、ボランティアとして、Undocumented Children と呼ばれるマレーシアの法律の課題により生まれてしまう市民権がない子どもたちの日本語学習サポートを行っている。基本的な教育・

医療サービスを市民権を有するマレーシア人と同様に受けられないことは大きな課題だと感じており、対症療法的ではあるものの、彼らに現地の NPO を通じて教育の提供に貢献できていることは非常に有意義に感じる。留学の傍ら、長野県塩尻市の関係人口創出事業として web3 技術を活用したオンラインコミュニティである DAO を活用したプロジェクト「塩尻 DAO」の共同ローンチに成功し、現在もコミュニティデザイナーとして精力的に活動をしている。活動を通じて、地方創生の基盤として web3 インフラを整え、共助、共創による人口減少時代のソフトランディングを目指すことを個人的なビジョンとして持つようになり、東京大学ブロックチェーン公開講座などの web3 およびブロックチェーン学習コンテンツに触れて、日々勉強に励んでいる。テクノロジーの加速度的進化と資本主義の暴走がもたらす、「分断」と「競争」をテクノロジーの正しい活用方法を模索して、リアル課題と接続することで「融合」と「共創」を生み出し、人類が社会課題に対して一丸となって向き合う土壌や文化を新たに構築すべく、自身の専門分野にとらわれず読書やイベント参加を通じた知の領域を越境・接続する経験も重要視している。今後も好奇心と利他心を原動力に多面的な視点で社会に貢献できればなどと思っている。



東京大学
工学部航空宇宙工学科 4 年

お世話になっております。近況報告をさせていただきます。まず、今年度も引き続き古河記念基金の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。また、先日は奨学生交付会に参加していただき、他大学で様々な研究を行なわれている方々と交流し、大変刺激になりました。

まず就学状況についてですが、4月に研究室の配属が決まり、卒業研究のテーマも決まりました。4月から6月にかけては、実験室に通い、先行研究を読ながら、卒業論文の準備を少しずつ進めていました。研究室では研究の進捗報告を2回行い、自分のプレゼン発表の技術がまだまだだと感じました。今後も学会などで発表する機会が多いと思うので、人にものをわかりやすく伝える技術を高めていけたらと思っています。研究室の先輩方は、学会

での発表をほとんどの方が行なっていて、優秀な方が多く、私も来年自信を持って発表等ができるようになるように、今後も研究に励んでいきたいです。さらに、大学院入試の準備も進めています。5月には TOEFL を受験しました。TOEFL を受験した5月と、大学院入試の検定料を払った6月は、少し生活が苦しかったです。貴奨学金のおかげもあり、乗り越えることができました。本当に感謝申し上げます。大学院入試の残りの専門科目と数学の勉強も、研究室の同じ学年の仲間と、過去問を解き進めるスケジュールを決めて週1回アウトプット会を開いて確認し合っています。7月から院試勉強が本格化するので、残りの科目の勉強にもより一層励んでいきたいと思っています。

次に、生活状況についてですが、週2回ブラジリアン柔術の道場に継続して通っています。時間があれば、練習の動画を見て、自分の動きの振り返りなども行って勉強しています。また、先日、骨髄バンクのドナーの件で、厚生労働大臣感謝状をいただきました。今後も、奨学生としてふさわしい行動を心がけてまいります。



東京大学大学院
工学系研究科化学生命工学専攻修士1年

私は現在大学院修士1年で東京大学工学系研究科化学生命工学専攻に所属しており、日々大学で研究に勤んでおります。この交流誌では研究のことや最近の自分の生活状況について記したいと思います。

まず研究について、私は分子生物学における RNA 修飾の研究を行っています。この分野は新分野でありながらコロナワクチンなどすでに多大な影響を及ぼし、将来性も非常に大きいです。応用性だけではない基礎研究を行っているため、知的好奇心を満たしながら、楽しく取り組んでいます。現在は二つの研究テーマを同時並行しており、国際学会での発表に向けて準備をしています。

次に生活について、最近では運動を生活に取り入れることができている。週数回お昼の時間に大学のプールで水泳をし、ジムで筋トレも開始しました。通学中の電車内では専門外の本の読書をし、研究室外の人との交流も適切な頻度でできています。一方、まだまだルーティン化できることは多いので、どんどん改善していこうと思っています。



慶應義塾大学
理工学部管理工学科 4 年

今年度から研究室に配属され、ゲーム理論を用いたモデル分析に取り組んでおります。私の研究テーマは「ポイントカードの有効期限設定におけるゲーム理論的分析」であり、行動経済学の視点を取り入れたモデルを構築する予定です。具体的には、ポイントの有効期限が近づくと無駄な買い物をしがちになるサンクコスト効果を考慮し、企業戦略を検討します。現在、このテーマに関連する先行研究の論文を精読し、研究に必要な経済学および数学の知識を深めているところです。先行研究の内容としては、ポテトチップスのような不健康な食品に対し、個人が消費目標を設定することで価格が上昇し、企業の利益と社会厚生が増加するという意外な結果が得られるものです。一見簡単そうに見えますが、モデル設定を適切に行わないと解が得られないため、非常に優れた論文だと感じました。

学業以外の活動としては、4 月に友人と共に町田市でバレーボールチームを立ち上げ、会計を担当しております。メンバーは徐々に増え、現在約 40 名が所属しています。しかし、トラブルも発生しており、利用していた小学校に不審者が侵入したため、安全上の観点から体育館の利用が停止されました。現在、新たな体育館を探しているところです。ゼロからのスタートで様々な課題に直面しておりますが、非常にやりがいを感じております。今後も学業と課外活動の両方に全力を注いでまいります。



東京大学大学院
理学系研究科天文学専攻博士 2 年

本年度も引き続き奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年度、自信作の論文を出し、その査読が長引いていたのですが、粘り強く対応することで、なんとか無事 6 月に受理され、出版されました。これで学会誌に受理された筆頭論文は 4 本目となったので、無事博士号を取得する算段がつかしました。この研究内容に関してプレスリリースも出したので、もしご興味があればご覧ください。

(リンク: <https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/press/10407/>)。

この研究は、吾妻鏡などにも記録されている 1181 年の星の爆発に関連したものです。その爆発の残骸の中心に星が残っていて、その星がここ 2、30 年で再び活発化したのではないかという内容です。

良い連絡は続くもので、昨年度末にインターンシップに参加していた第一希望の金融機関から 6 月に内定をいただくことができました。卒業は 2026 年度 3 月ですので、これらのおかげで、残り 2 年弱の自由時間を得ることができました。怠惰な生活をしているとこの 2 年間は一瞬で無駄になってしまうと思うので、どのようにしてこの 2 年を過ごすのかを最近考えています。科研費を用いて研究議論として海外を飛び回りを考えて、そのことで自分の英語でのコミュニケーション能力を向上させるとともに、視野を広げたいと思っております。海外に飛び回るだけでは 2 年間は非常に長いので、自分の将来や社会に役立つような過ごし方ができるよう、これからも考えながら過ごしていきたいと思っております。

このように余裕を持って学生生活を過ごしているのは、ひとえに、修士 1 年から古河記念基金にサポートしていただいたからだと考えています。本奨学金のおかげで心に余裕を持ちながら研究、就活に打ち込めました。ありがとうございます。残り 2 年弱のラストスパートも引き続きよろしく願いいたします。近況報告をご覧いただきありがとうございました。



早稲田大学
先進理工学部応用物理学科 4 年

今年から研究室に配属され、研究生活が本格的に始まりました。ここでは、リザーバーコンピューターという新しい計算モデルについて研究しています。リザーバーコンピューターは、機械学習の 1 種で、特に時系列データの処理に優れています。従来の機械学習では、全てのパラメータを学習する必要がありますが、リザーバーコンピューターは出力層のみの学習で済みます。この特性により、学習が高速かつ効率的に行える点が大きな特徴です。

私の研究テーマは、物質に電圧を印加することでイオンの動きを制御し、リザーバーに必要な特性である非線形性や短期記憶特性を実現することです。これらの特性が大きいほど、リザーバーコンピューターの性能は向上します。

そのため、材料や温度などの条件を変えて、精度の高いリザバーコンピューターを見つけることが今後の目標です。現在は、ランダム乱数を入力したり、MNIST の文字を光照射したりすることによって、リザバーの動作を解析しています。具体的には、リザバーのサイズ、出力層の学習方法、入力データの前処理方法など様々なパラメータの調整を行なっています。将来的には、リザバーを使って数値予測や画像認識、音声認識ができるようになることを目標としています。これにより、多くのデータを AI で分析できるようにし、社会の幅広い分野に貢献したいと考えています。

研究生活は忙しく大変ですが、毎日が充実しており、新しい発見や学びが多いです。これからも研究に励み、少しずつでも成果を上げていけるよう、努力を続けていきたいと思っています。



富山大学大学院
理工学研究科理工学専攻
メカトロニクスプログラム修士2年

まず、本年度も古河記念基金奨学金の支給を決定していただけたことに非常に感謝申し上げます。前年度では、奨学金を頂いたことにより空飛ぶクルマへの搭載を目的としたアンテナの開発にこれまで以上に没頭することが出来ました。私の研究は、前述しました通り現在、注目が集まっている空飛ぶクルマに搭載可能なアンテナを開発することを目標としております。空飛ぶクルマは、通信を行うターゲットが水平面に限定される従来の自動車電波伝搬環境とは異なり、機体角度が水平方向および垂直方向へと自由に飛行方向を変化させるため、全立体角度に渡る放射特性を有するアンテナの開発が必要となります。到来波の方向及び、機体角度の変化に対応した位相制御方法の提案を行い解析において提案方を用いることによるアンテナの精度向上が期待できることを確認しました。今後は、実験的検証も踏まえて実用化に向けた研究を行っていかうと考えております。

また、最近ではプラモデル作成が自分の趣味となりました。研究に没頭するようになってから「ものづくり」に対しての向き合い方が変化し、筋道を立てて成果を出すまでの過程を考えるようになり、その思考がプラモデル作成に繋

がっていると感じます。これまで趣味と呼べるものが無かった中で、研究を通して出来た趣味であるため自分でも思わぬ所での趣味の発見だと自分でも驚いております。この趣味は今後とも大事にしていきたいなと感じております。

研究に対する時間を費やすことや新しい趣味の発見が出来るようになったのも、古河記念基金様によるご支援があつてこそだと思います。あと半年ほどではございますが、自分の研究が実になるように精進して参りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



東洋大学
情報連携学部情報連携学科 4 年

昨年度に引き続き、今年度も古河記念基金様の奨学生として、ご支援をいただいております。引き続きよろしくお願いいたします。

私の通う大学では、4 年生になると卒業研究や実践的なプロジェクトに取り組む機会が増えます。今年度は、生成 AI 技術を活用して社内ドキュメントを効率的に扱うための RAG (Retrieval-Augmented Generation) アプリケーションの開発に携わりました。このプロジェクトでは、膨大な社内ドキュメントを迅速かつ正確に検索・生成する仕組みを構築し、情報の共有と活用を大幅に向上させることを目指しています。プロジェクトメンバーと協力し、技術的な課題に取り組みながら、実用的なツールを開発することに力を注いでいます。

また、セキュリティ分野においても活動しています。今年度は、世界的なセキュリティ大会である CTF (Capture The Flag) の決勝戦に出場することができました。チーム一丸となって難解なセキュリティ問題に挑戦し、技術力と協力の大切さを再認識する貴重な経験となりました。

さらに、卒業研究として、説明可能な AI (XAI: Explainable AI) の研究に取り組んでいます。AI の決定プロセスを人間に分かりやすく説明できる技術は、今後ますます重要になると考えています。私の研究では、特に医療や金融の分野での応用を視野に入れ、AI が出した結論をどのように人々に納得させるかを探求しています。研究は現在、実験と評価の段階にあり、さらなる成果を目

指して取り組んでいます。

以上、今年度の活動についてご報告いたしました。RAG アプリケーションの開発や CTF 大会の参加、そして XAI の研究を通じて、多くのことを学び成長することができました。今後も引き続き努力を重ね、皆様のご期待に応えられるよう努めてまいります。引き続きご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。



東北大学大学院
工学研究科都市・建築学専攻修士2年

昨年から引き続き奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

現在、畳み込みニューラルネットワークを用いて都市の均質化を明らかとする研究を行っております。建物のファサードを CNN を用いて時代横断的に分析することで、その類似性に着目し、危険な都市の均質化に警鐘を鳴らしていく所存です。

また、生成 AI においてファサードが暴力的にその尊厳を失っております。本来、各都市で特定の統一性のあるファサードが連立することで都市の表情は形成されます。しかし、生成 AI はその周辺ファサードを全く加味しないファサードを大量に供給してきます。

ここで私は、新たなシステムの確立を目指しました。それは、周辺の建物のファサードの表情を加味したファサードを生成するシステムです。つまり、その建物個別ではなく、ファサードを群として捉えて、これに則ったファサードを生成するシステムのことです。

このシステムは建築設計で必須条件である「周辺環境」を加味した成果物が算出されるので、社会に非常に有益であると考えます。

このシステム開発に残りの短い学生生活の全ての時間を捧げていく所存です。

横浜国立大学大学院

理工学府機械・材料・海洋系工学専攻

修士2年



この度は奨学生と採用していただき、誠にありがとうございます。

私は、材料のマイクロ構造である「材料組織」を予測する手法を研究しています。材料組織は材料の特性を決める重要な要素であり、例えば日本刀の硬さはマルテンサイトと呼ばれる組織によって実現しています。日本刀を作るために、焼き入れたり、叩いたりするように、材料組織の最適化には複雑な製造プロセスが必要となります。しかし、材料組織の変化を直接観察するのが難しいことから、製造プロセスと組織の関係を明らかにするのは困難です。さらに近年では複数の元素を混ぜて材料を作る、多元化が進んでおり、その材料組織もより複雑になっています。そこで私は、多元材料の組織を定量的にシミュレートするための理論を構築しています。

今年度は研究成果として、理論の論文が国際誌に採択されました。英語での文章作成、査読者との英語でのコミュニケーションに四苦八苦しましたが、「もっと英語を習得したい!」と思わせてくれる貴重な経験となりました。今後は、もう一つ構築した理論があるため、二報目を執筆する予定です。

私が研究活動に専念できているのは、古河記念基金の奨学金のおかげです。心より感謝申し上げます。



金沢工業大学
工学部機械工学科3年

この度は、昨年度に引き続き奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

近況報告として、私からは大学の授業について報告いたします。3年から専門科目の難易度が跳ね上がり、特に3Dモデリングと専門実験・演習という2つの科目が専門性の高い内容で、今まで学んできた内容を活用することはもちろん、分からないことにも仮説を立てて果敢に挑むことが求められます。3Dモデリングはヘリカル減速機の設計を材料の選択からすべて行います。受講者によって求

められる製品の仕様が異なり、その仕様に合わせて製品が割れたり部品同士が干渉したりしないような寸法決定を行う必要があります。専門実験・演習では、様々な科目の授業で学んだことを、実験を通して理解し、その内容をword でまとめるというものです。この科目は前学期、後学期に分けて行い、前学期は3週間で別の科目に、後学期は2週間で別の科目に変わるため、短時間でいかに多くの気づきを得られるかや、実験結果に対して論理的な考察ができるかが求められます。

以上が私の近況報告です。後学期からは研究室配属もあり、より多忙な日々を過ごすこととなりますが、学びの姿勢を崩さず、精進して参りますので、今後ともよろしくお願いたします。



長岡技術科学大学大学院
工学専攻環境社会基盤工学分野
修士2年

この度は、古河記念基金の奨学生として昨年度に引き続き採用していただき、誠にありがとうございます。近況について、研究活動と就職活動をご報告いたします。

まず、研究活動についてですが、昨年のアクアポニックスシステムの比較試験のデータに基づいて、小規模な実証試験を行う予定です。昨年は、学会に2回発表し、自らの成果を発表するだけでなく、研究に関する知見も深めることができました。今年も2回学会に参加する予定であり、7月には韓国で開催された国際会議に出席しました。次に、就職活動についてです。ベトナムに滞在中、化学工場群がある水域での養殖現場を訪れ、深刻な水環境問題を目の当たりにしました。この経験から、将来は世界の環境と食糧問題の課題解決に貢献し、国を超えて多くの人々に役立ちたいと考えるようになりました。また、仲間と一緒に計画したものが形になることにやりがいを感じるため、チームで大きなプロジェクトを遂行するプラントエンジニアリング業界に興味を持ちました。幸いにも第一希望の会社に内定をいただくことができ、社会に貢献できるよう精進したいと感じています。以上、私の近況についてご報告申し上げます。



東京工業大学大学院
工学院修士2年

ここ3ヶ月くらい、研究室にいる時間が長い割に進捗はなく、家に帰ると携帯を弄るだけの生活を送っていました。これではいかんと思い、目に見える変化を1つと、気の持ち様の変化を1つ取り入れてみました。目に見える変化は、自分の部屋に机と本棚を配置することです。下宿先なこともあり、今までは机の上は物置状態、本も山積みになっていました。家での自分の定位置を机にして、視線の先に本の背表紙を置くことで、勉強意欲が湧くことを期待しました。まあまあ効果はありました。数少ない本棚の本をちょっとだけ紹介すると、圏論的量子力学、新詳高等地図、韓国語能力試験…などです。背表紙だけで満足しないように頑張ります。気の持ち様の変化は、仕事ではなく遊び優先で考えるということです。これは例えば、今日は18時に必ずカラオケに行く決めておけば、自動的に仕事の効率が上がることを期待したものです。こちらは効果こそまだ出ていないですがポテンシャルは感じています。効果が出ていない理由は、自分が1時間単位でできる遊びを持っていないことです。そのような遊びになりうるものとして、自分が暇なときにやる語学、ランニング、駅名由来探し…などがあります。これらをどうやって遊びに進化させるか、例えば検定などの目標を設定するなど、を現在考えています。最後に、雑記ですが、僕はカタカナ語の増加が寂しいです。コンシェルジュは相談員でいいし、ハザードマップは危険地図のほうがいいです。理由は、初めてその単語を見る人が意味を予想できることです。これは漢字の表意文字としての一番の魅力だと思います。中国語ではパソコンを電腦というし、ニュアンスは語気とか語感といいます。将来日本語がカタカナだけになってしまうかもしれないと思うとちょっと怖いです。

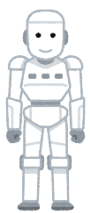


横浜国立大学大学院
理工学府機械・材料・海洋系工学専攻
機械工学教育分野博士2年

昨年度に引き続き、今年度も奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。本稿では、研究活動に関する近況報告をできればと思います。

私はセラミックスや超合金などの材料を対象に、材料組織特性(気孔や介在物のサイズ、形状分布)と強度特性(破壊強度や疲労強度のばらつき)を関連付けることのできる数値シミュレーション手法の開発に取り組んでいます。本研究は、将来的に航空機エンジンの設計への適用を想定しております。航空機のエンジンの事故は多くの人命に関わるため、性能の下限値(最悪の状況)を予測できることが重要です。そのような責任を感じながら研究を進められることに、やりがいを感じています。

研究成果については、国際誌に論文(筆頭著者)が2報採択されました。論文データベースで自身の名前を検索すると、自身の論文がヒットするのは何だか嬉しいものです。また、年始には米国のフロリダで開催された国際会議にて発表をしてきました。研究内容はもちろんのこと、欧米人は体の動きを使ったプレゼンテーションが上手であり、非常に勉強になりました。今後も奨学生としての自覚を持ち、研究活動に邁進してまいります。



東京大学大学院
情報理工学系研究科知能機械情報学専攻
修士2年

本年度も奨学生に採用して頂きまして誠にありがとうございます。私は学部から引き続き、修士課程でも等身大人型ロボットの研究に取り組んでいます。研究では衝撃吸収性に富む機構によりジャンプなどの動作が可能で JAXON3 という等身大人型ロボットを使っています。特に最近では、アメリカ、中国に続き世界3番目となる等身大人型ロボットの宙返りの修論での実現を目指し、制御と機構の両面で研究に励んでいます。制御では、全身動作最適化による宙返り動作の生成に取り組み、つい先日物理シミュレーション上で JAXON3 を宙返りさせることに成功し

ました。加えて機構においては、その宙返り動作を達成するため、JAXON3 の重要な関節の改良設計に取り組んでいます。

実際のロボットにおいて宙返りを達成するためには、動作中のずれを修正する制御(フィードバック制御)に加え、より軽量かつ強靱な機構が要求されるため、まだまだ困難が予想されます。そのため設計者自身も軽量で強靱な肉体を手に入れる必要があると感じ、食生活の見直しと筋トレを経て半年間で7kgもの軽量化に成功しました。このように大学に入ってから一番充実した研究生活を送ることが出来ているのは、古河記念基金の皆様の長きに渡るご支援のおかげです。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。これからも頑張ってお参りますので、よろしくお願いいたします。



慶應義塾大学大学院
理工学研究科開放環境科学専攻
修士2年

昨年度に引き続き奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。この一年、東京の生活リズムを感じながら、研究と生活のバランスを取るよう努めてきました。多忙な日々でしたが、とても充実していました。

特にこの一年間は、NLOS イメージングの実用化を目指し、スキャン時間を短縮しつつ良好な復元結果を出力する技術の確立に取り組んできました。この技術は、「壁越しに物を見る」ことを可能にし、災害救助や自動運転、セキュリティ分野などの応用が期待されています。多くの努力の末、ついに研究に成果ができました。今年の8月には熊本で、10月にはアブダビで研究発表を行う予定です。そのため、最近では発表準備に追われる日々を過ごしています。私は日本語と英語のプレゼンテーション能力をさらに向上させ、日本および世界中の研究者と交流できるようにしたいと考えています。

今回の研究を通じて、様々な新興のセンシング技術に強い興味を持つようになりました。来年は博士課程に進学し、さらに深く研究を進める予定です。その中で、複数のセンシング技術を統合して、NLOS イメージングの精度と環境適応性を向上させるマルチモーダルモデルを開発する予定です。

AI 技術が急速に発展するこの時代に、安全・安心な社会を構築するために、研究者として自分の力を貢献したいと考えています。AI の進化は、人々の生活を大きく変える可能性があります。その中で、私の研究がどのように社会に貢献できるかを常に考えながら取り組んでいます。今後も研究を深め続け、新たな技術革新に寄与できるよう全力を尽くしていきます。



横浜市立大学
理学部4年

私は現在学部4年生で、講義を受ける傍ら研究をする日々を過ごしています。学部3年生までは時間割を埋め尽くすほど幅広い分野の講義を受けて充実した生活を過ごしていましたが、現在は興味のある事象を深く探究することに過去最高の充足感を感じながら毎日を過ごしています。

私は、海洋微生物によるプラスチック分解に興味を持ち研究を行っています。近年プラスチック廃棄物による環境汚染は国際的な課題になっています。これまでに、土壌に生息するプラスチック分解細菌については過去に報告がありますが、海洋微生物によるプラスチック分解の詳細についてはほとんど明らかになっていません。そこで私は、大学近くの沿岸海水から採集した微生物群集からPET(ポリエチレンテレフタレート)を分解する海洋細菌を単離し、現在はゲノム解析を行ったり分解産物の特定を行ったりして詳細な分解機構の解明を目指しています。

そして、研究活動を通して、異分野融合の重要性を痛感いたしました。意外と研究者は自分の研究室に籠りっきりです。私も以前まではそうでしたが、大学内の他研究室との共同研究を通して、お互いの研究室が主催するBBQに飛び込み参加できるくらいまで仲良くなりました。そして、それぞれの研究の強みを融合することで単一の研究室では成しえなかったプロジェクトも遂行しようとしています。また、ひよんなことから大学外のとある研究者コミュニティへ参加したことで wet 研究と dry 研究融合の重要性を痛感し、今後は運営メンバーとしてこのコミュニティの活性化に携わり、異分野だからこそ生まれる新規アイデアやプロジェクトを社会に貢献させていきたいと考えています。

先日、内部推薦の合格をいただき、引き続き大学院に

て学びを深めていけることが決定いたしました。これもひとえに貴財団からのご支援のおかげであります。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。



長岡技術科学大学
工学部環境社会基盤工学課程学部4年

昨年度に引き続き奨学生に採用していただきまして、誠にありがとうございます。

私は今年の4月に地震工学研究室に配属されました。研究活動にいよいよ携われることを嬉しく思うとともに、身が引き締まります。研究室では地震被害の軽減を目的に、地震動や地盤の解析精度向上や実務への応用方法を研究しています。具体的には、地盤が地震に対しどのような反応をするか予測する手法の開発、および液状化予測の高精度化を行っています。

また、巨大地震が発災した際に現地調査を行うことを重要視しており、令和6年能登半島地震や2023年のトルコ地震の被災地で各種検証を行っています。地盤がどのような挙動を示したのかを記録し、ドローンの活用を通して被害地域の3Dモデル化を進めています。今後の大学生活では私もこうした研究・調査活動に邁進し、日本をはじめ世界の地震被害を経済的に低減させられる技術の開発に貢献したいと考えています。

また、先日右膝の前十字靭帯を断裂したため、夏休み中の手術を予定しています。けがの影響でアルバイトによる収入が減少しましたが、古河記念基金様から奨学金をいただいているおかげで学業に励むことができいております。改めてお礼申し上げます。

私は修士課程への進学が決まっているため、あと2年半の研究生活が続きます。今後とも奨学生に採用いただけるよう、日々精進を重ねてまいります。



金沢大学
医薬保健学域薬学類 6年

昨年度に引き続き奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。早いもので、6年間の大学生活も残すところあと半年程度となりました。現在は、11月に行われる卒業発表に向け研究のまとめに入っているところです。

私の研究室では蚊が媒介する感染症であるマラリアに対するワクチンの研究を行っています。マラリアの原因となるマラリア原虫は複雑な生活環をとることからワクチン開発が難しいとされており、現在使用されているワクチンにも持続性などの問題点があります。そこで私たちはウイルスベクターを用いた新しいワクチンプラットフォームを確立し、それを基にマラリアに対するワクチンを開発しました。現在このワクチンはサルを用いた前臨床試験の段階に進んでおり、私のテーマはサルにおけるワクチン効果を評価することです。サルはマウスなどに比べよりヒトに近いデータが取れる分重要な実験となるため、先生方と話し合い実験系を一から検討し、慎重に進めていきました。中々上手くいかないこともありましたが、試行錯誤した結果良いデータがとれ、学会にも参加させていただけることになりました。今まで自分の研究室以外の大勢の人に研究内容を発表する機会がなかったため、学会も卒業発表も緊張すると思いますが落ち着いて臨みたいです。

卒業発表が終わった後は国家試験に向けた勉強を本格的に始めなければならず、まだまだ忙しい日々は続きますが一日一日を大切に頑張っていきます。



東京工業大学
物質理工学院材料系修士 2年

盛夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日々続く猛暑の中、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

修士課程入学から早くも一年半が経過し、時の流れの速さに驚かされる日々です。現在は、主に原著論文の執筆に注力しております。英語での論文執筆は初めての経験であり、多くの困難に直面しておりますが、同時に多くを学ぶ機会ともなっており、論文の構成や重要点をより深

く理解できるようになったと実感しております。

来年度は博士課程に進学するため、これまで以上に自身の研究の意義を深く理解し、その価値を適切に伝えられるよう、日々研鑽を積みたいと考えております。

また、昨年度参加させていただいた工場見学会は、非常に有意義な経験となりました。実際の製造現場を見学することで、座学では得られない貴重な知見を得ることができました。今年度も同様の機会があることを励みに研究活動に取り組む所存です。

末筆ながら、古河記念基金様のご支援により、このように研究活動に専念できる環境を与えていただいていることに深謝申し上げます。今後も一層努力を重ね、期待に応えられるよう邁進してまいります。



東北大学
工学部機械知能・航空工学科
ファインメカニクスコース 3年

この度は、昨年度に引き続き奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

私の所属している東北大学工学部機械知能・航空工学科では、3年次前期に研究室配属が行われますが、無事第一希望の研究室への配属が決定いたしました。私の配属された研究室では、主に燃料電池や二次電池内部におけるナノスケールの流れを数値シミュレーションにより解析する研究が行われています。研究開始は4年次からとなりますが、その前段階として、現在博士課程の先輩に教わりながら論文を読んでいます。英語で書かれた論文を読む機会はこれが初めてであり研究内容に深く触れるのもこれが初めての機会ですので、知らない単語ばかりで苦戦しておりますが、理解を深めながらコツコツと読み進めています。

また、この近況報告書を書いているのは7月半ばですが、来たる期末試験に向けて、テスト勉強に励んでいるところでもあります。本年度から専門科目のみを履修しておりますが、内容が濃く大変難しいため苦戦しつつも、今までに学んできた内容がようやく繋がり、面白さを感じているところでもあります。まずは目の前の試験に集中するとともに、後期には研究内容と密に関連している講義もあるため、期待を膨らませています。

最後になりますが、本年度も奨学生としての自覚を持ち、学業に取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。



大同大学
工学部電気電子工学科 4年

この度は、引き続き奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。

私は小型EVモータの小型化について研究を行っています。モータにもさまざまな種類があり、私が卒研で扱うモータは、永久磁石同期モータという永久磁石を使ったモータを扱います。研究では設計仕様で定められた、モータの最大出力、定格出力を出し、効率を落とさずに現行のモータから15%程度体積を小型化するという研究で、電磁界解析ソフトを使いモータに使用される素材や、モータの回転数、永久磁石の配置や形などを変えていき目標の値を目指していくという研究で、現在は永久磁石同期モータについて理解を深める段階で9月から本格的な研究が始まります。話は変わりますが、9月初めに大学院推薦入試を受験し大学院に行きたいと考えています。

最後になりますが、古河基年基金の皆様のご期待に応えられるように研究活動に精進してまいります。今後ともよろしく願いいたします。



東京農工大学
農学部 4年

皆様からの厚いご支援に深く感謝申し上げます。

時の流れも速いもので、近況報告を書かせていただくのも3回目となりました。今回の近況報告では研究室活動についてお話させていただければと思います。

本格的に研究室活動が開始してから4か月が経とうとしております。私の所属している研究室は先生含めメンバーが6人しかおらず、学科内でも屈指の少なさです。そのため学生間の距離が近く、先輩方や同期から様々なアドバイスをもらいながら日々活動しております。今までの活動の中で一番大変だったことは吸着等温線を作成するための実験です。計22本の50mlチューブを同時に実験する必要があり、長いときは朝の10時から夜の9時頃ま

で作業していました。この実験を通して、研究には体力と根気が大切なのだなど痛感いたしました。研究活動というのは今まで考えていたよりも泥臭いものなのだなどこの経験から学びました。現在は卒業研究の方向性を決めるための情報収集を主に行っておりますが、思うように情報がまとめられずこちらでも根気強さが必要になってきております。我慢強さが長所である私ですが、卒業研究の先の見えなさに心が折れそうになる時があります。どうか自分の心に休息を与えながら、まずは卒業研究を完走できるよう精進して参る所存でございます。



東京大学大学院
新領域創成科学研究科
先端生命科学専攻修士 2年

今年度も、引き続き奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。

大学院修士2年になり、4か月が過ぎました。4月に行われた修士中間報告では、約1年間の研究成果と今後の研究計画について教授と学生に発表しました。ポスターを作製し、人前で発表するのが初めてであったため、とても緊張しましたが、とても良い経験となりました。また、修士中間報告で発表したポスターを英語にし、英語で発表する生命科学英語演習では、他研究室の教授からアドバイスを直接頂ける授業だったため、とても貴重な経験になりました。そして、研究室に来ているベトナム人留学生と仲良くなり、英語で会話する機会が増えたため、英会話の勉強にもなり、研究生生活が充実しております。12月には、修士論文の提出、2月には、修論発表討論会があるため、研究もこれまで以上に頑張りたいと思います。

そして、進路について、教員採用試験を3自治体受験しています。現在、3自治体の一次試験の受験が終わり、二次試験の面接に向けて個人面接・集団面接の練習をしたいと考えております。良い結果をご報告できるように頑張りたいと思います。



慶應義塾大学
理工学部情報工学科博士3年

最近終了した研究プロジェクトで、私は深度ビデオに基づく車内での二次行動認識技術を深く探求しました。

Depth-
videobasedSecondaryActionRecognitioninVehiclesviaCNNandBi-LSTMwithSpatialEnhanceAttentionMechanism (CNNとBi-LSTMと空間的に強化された注意メカニズムによる車内二次行動認識)」と題されたこの研究は、IEEEOpenJournalofVehicularTechnology誌に投稿されました。この研究は、畳み込みニューラルネットワーク(CNN)と双方向長期短期記憶ネットワーク(Bi-LSTM)を、新しい空間的に拡張された注意機構と組み合わせることで、車両環境における行動認識の精度と効率を大幅に向上させるものです。この論文は現在査読待ちで、知的交通システムに貢献できることを非常に楽しみにしています。

同時に、私は日本語の上達にも積極的に取り組んでいます。日本語の重要性と、私の専門分野で日本人の同僚とコミュニケーションを取る必要性を考慮し、7月初めに日本語能力試験の最高レベルである日本語能力試験N1を受験しました。試験の難易度は予想していたよりも若干高かったものの、私の言語学習にはまだまだ改善の余地があることを実感させられました。今後は、日本語学習の時間をもっと計画的に組み、実際の会話や読解の練習を重ね、日本語力を向上させたいと思います。



東京都立大学大学院
システムデザイン研究科
機械システム工学域博士1年

私は計算バイオメカニクスという学問を専攻しており、細胞の力学モデルの構築とシミュレーション、妥当性検証のための細胞実験に取り組んでいます。日常は基本的に研究ですが、休日や平日の空き時間には研究と関係ない本を読んでいます。最近、純文学を多く読んでおり、特に中村文則さんの小説に感銘を受け、著作を全て読みました(24作ほど)。最新刊発売の際にはサイン会にも行ってきました。こういうイベントは初めてで緊張しましたが、とても気さくな作家で、僅かでしたが楽しい時間でした。

た。中村文則さんは、人間の暗く深い部分を描いているため、基本的に暗い作風です。しかし、不条理な世界で主人公が悩み苦しみながらも一縷の希望を見つけ出すため、僕個人はとても好きな小説です。他にも有名作をいくつか読み、楽しんでます(ドストエフスキー「罪と罰」、カミュ「ペスト」、夏目漱石「こころ」、安部公房「砂の女」、大江健三郎「死者の奢り」)。研究は思うように進まないことも多く、悩みや焦りも尽きませんが、こういった小説を読むと少し励まされるような感覚になります。最後に愛読する中村文則さんの作品から一節を引用したいと思います。「現在というのは、どんな過去にも勝る。(略)途方もない奇跡の連続は、(…)今のお前のためだけにあった、と考えていい」引き続き研究と文学を楽しみたいと思います。



長岡技術科学大学
工学専攻環境社会基盤工学分野修士2年

私の研究テーマは、「閉鎖循環型養殖における窒素除去システムの開発」である。閉鎖的環境では、魚の排泄物由来の毒性の高いアンモニアや亜硝酸が養殖水槽内に蓄積するため魚が死亡する恐れがある。これを微生物を利用した水の浄化システム(リアクター)を用いることで閉鎖的環境内でも養殖を可能にし、魚類の生産率を向上させるという目的がある。昨年までは、リアクターの性能評価の実験のみを行っており、実際に養殖水槽にリアクターを設置おらず養殖実験はしていなかった。しかし、今年度から性能評価実験の結果をもとに養殖水槽に設置するリアクターを設計し、実際に設置して運転を開始することができた。また、研究の中で韓国に出張した。私にとって初めての海外経験であり非常に良い刺激となった。しかし、英語での会話が一般的な大学のため、英会話経験がない私は非常に苦戦した。最初は、英語で会話ができなかったが、時間が経過するにつれ英語での議論の意味が少しずつ理解できるようになった。そのため、これからの残り少ない大学院生活の中で英語を喋れるようになるという新しい目標を立て、頑張っていきたいと思う。これからも学業にしっかりと励んでいきたいと考えている。



日本大学
生産工学部機械工学科2年

2年生の前期は授業・アルバイト・サークル活動の両立に追われる、とても忙しく充実感のある期間でした。機械工学科としての授業は昨年よりも内容が一段階難しくなり、1年生で学んだ基礎的な内容をもとに製図や材料試験が新たに加わりました。製図の授業ではボルトや軸の図面を描き、それをもとに自らの手で部品を加工しました。材料試験では材料の硬さ試験や引張試験など毎週違う実験を行い、予習レポートと実験レポートに取り組みました。内容は難しくなりましたが、座学だけではなく実践的な課題に取り組むことで自分たちが何を学んでいるのか理解が深まり、互いの授業の内容がつながっていることが面白いと感じました。また、製図・実験の授業を通してわからないところを積極的に教えあい、身の周りの情報を集めることにより、人脈を活用し人とのかかわりを深められたのもよかった点であると思います。この前期は新しいアルバイトを本格的に始めた時期でもあったため、勉強とサークル活動との両立をすることは正直辛かったですが、限られた時間で要領よく課題をこなす力をつけることができたと思います。余裕のない中でも、よい成績を目指すことができたので達成感がありました。新しいアルバイトでは、接客に深くかかわる仕事のためコミュニケーション能力を高めるいい刺激になり、気分転換の一つになっています。後期もより忙しくはなるとは思いますが、効率よく物事を処理する力を養い、充実した大学生活を続けていきたいです。



北見工業大学大学院
工学専攻機械電気工学プログラム修士1年

この度は、古河記念基金の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。修士学生となり、約4ヶ月がたちました。近況の報告として、私の研究と最近の出来事についてご報告させていただきます。

私は現在、学部時代から続けている「低温条件下におけるディーゼル排ガス中の有機酸計測に関する研究」というテーマで研究をしています。-20℃などの低温条件下

での有機酸の計測方法を確立し、排出特性を解明することを目指し、試行錯誤を重ねています。また、研究室では後輩ができ、様々なことを教える過程で自分自身も学ぶことが多く、より深く自分の研究分野についての理解を深められています。

コアタイム後や休日は、研究室のメンバーと一緒に野球やサッカーなどをして過ごしています。そして先日は大学4年生や修士2年生の進路が確定したことを祝うために、教授を含む研究室のメンバーでバーベキューを行いました。その際、教授が焼きマッシュマロが好きであることが新たに分かり、教授の意外な一面を見ることができました。夏前の良い気分転換となったため、これからさらに研究に力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

現在、多くの企業が夏の説明会やインターンシップの案内を行っており、いくつかの自動車メーカーのインターンシップに応募しています。もしインターンシップに受かることができたなら実際の企業では何を考え、どのように仕事を行っているのかということを知りたいと考えています。

以上、簡単ではありますが、私の近況報告とさせていただきます。これからも学生生活をより充実させるため、日々努力を重ねてまいります。引き続き応援していただくと幸いです。今後ともよろしく願いいたします。



芝浦工業大学大学院
理工学研究科社会基盤学専攻修士2年

昨年度に引き続き奨学金のご支援をしていただき、誠にありがとうございます。私は、鋼橋の疲労損傷に対する補修・補強方法について研究を行っています。我が国の土木構造物は建設から50年以上経過しているものが多く、劣化が問題となっており、維持管理が重要視されています。鋼橋の劣化現象には疲労・腐食などが挙げられますが、その中でも私は疲労についての研究を行っています。

疲労とは1回の作用では壊れない程度の大きさの力でも、繰返し作用することで、き裂が発生してついには破壊に至る現象です。私は研究において、支点上部の端補剛材という部材に発生するき裂に対して注目しています。このような場所にき裂が発生する事例は多くあり、また支点部には様々な部材が接合されているため、補強方法に制

約があります。更に、補強を今後行っていくに際して、施工面では簡易的で特別な治具を必要としない施工方法が求められています。そこで私は「当て板補強」という補強方法に着目し、研究を行っています。当て板補強とは、進展したき裂に対して当て板を強い力で接合することで、疲労き裂発生箇所に加わる負荷を低減し、疲労き裂の進展を抑制するものです。

研究では、解析ソフトを用いて実橋梁のモデルを作成し、当て板の設置箇所および寸法を決定した後、実験で実際に施工を行い、施工性や着目部に加わる低減効果の検証を進めて参りました。現在は解析と実験を一通り終え、着目箇所に加わる負荷の低減する効果があることを実証することが出来ました。今後は、実橋梁で発生している様々な損傷事例の状態を解析によって再現し、汎用性の高い当て板補強方法について研究を進めていきたいと思ひます。



長岡技術科学大学
工学部・物質材料工学課程4年

この度は昨年度に引き続き奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

昨年9月に1年生の頃から入りたかった研究室に配属され、これまでの授業に加え自分自身のテーマの研究が加わり、忙しい日々を送っております。

授業の面では、今年2月に大学院の学内推薦に関する試験があり、課程3位の好成績を修めました。これにより大学院授業の先取りが認められ、1学期は学部の授業に加えて、大学院の授業を履修していました。大学院の授業は学部の授業と比べて難しく、学部の授業と並行しての履修は大変でしたが、より専門的になっていく授業は面白く感じます。

研究については、私が配属された研究室はガラスを電池に利用した新規酸化物全固体二次電池の創製を目指しており、私はその中で正極材料の研究をしています。全固体電池は安全性や速い充電速度などが注目されていますが、酸化物固体電解質は非常に硬く空隙も多いため電極の接合が問題となっています。そこでガラスには軟化流動をと、固体でありながら液体のように形を変える性質があります。その性質を利用することで、電極が

固体電解質に密に接合した全固体電池が作れるのです。

さて、私が所属する大学は理系の大学の中では珍しく学位論文を書かなくて良い大学となっています。その代わりに4年生の10月初めから1月末までの4ヶ月間にわたる長期インターンシップに赴くことになっております。しかしながら、学部時代の研究をまとめて発表する機会がないわけではなく、長期インターンシップ前の9月に研究をまとめ、発表する場があります。この発表に向けて、日々研究に邁進しております。



北海道大学大学院
理学院修士2年

近況報告として、夏休みの計画と、最近考えていることの2つを書きます。

まずは夏休みの計画に関して、9月に学会での発表を控えているため、今はその研究と準備に追われています。ただ、学部4年生の頃から2年間ほど力を入れてきた研究なので、ひとまず形にして世に出せることを嬉しく思います。今までは手を動かし実験をしてきましたが、最近では実験データの解析や参考文献を読み込むことに注力しており、新鮮で刺激的な研究生生活となっています。夏休みでは、学会で納得のいく発表ができるよう、その準備に励みます。

次に最近考えていることに関して。最近では研究室にこもる生活をしており、(忙しさという意味で)ほとんど社会人と似たような生活を送っています。よく社会人の方々が「あと2日頑張れば土日」と言うのを見てきましたが、平日も土日も暇な学生の視点では理解できませんでした。しかし最近になって、社会人がどれだけ大変な苦勞をして働いているのか少し理解できました。残り長くない学生期間なので、「学生だからできること」もしつつ、有意義な社会人生活に繋がるような経験を積極的にしていきたいと思ひます。



信州大学大学院
総合理工学研究科繊維学専攻
化学材料分野機能高分子学ユニット修士2年

私は現在「L-シトルリンを基盤とした低分子ゲル化剤の開発」というテーマで研究をしています。私はエマルジョンという水と油のように互いが溶け合わない液体同士が混ざり合った状態のものをゲル化させ、それらの物性等を調査する研究を行っています。また私は現在修士2年であり、修士論文の執筆や発表が今年度末に控えているため残りの数か月はより一層研究を頑張っていきたいと考えています。

去年始めたホテルのアルバイトは現在も続けており、仕事の内容や人間関係等に慣れ、言葉遣いやお客様への対応なども身につけてきました。特に言葉遣いに関しては就職活動をする中でアルバイトをした経験が活きたと感じています。

就職活動は4月の中旬に終了することができました。自分の思った通りに進むことが難しく、辛く感じる時が多かったです。しかし自分のいい部分と悪い部分を浮き彫りにしたことや自分が何をしたいかということ深く考える良い機会になったと今では思います。

最後に、卒業するまでの数か月が私にとって最後の学生生活となるので研究などの自分がやるべきことに力を入れつつ、残りの学生生活を楽しまたいと考えています。



山形大学
工学部4年

この度は、貴財団の奨学生として採用していただき、ありがとうございます。この場をお借りして、改めて深く御礼申し上げます。本年度より、学部4年生として、主に研究活動に励む日々が続いておりますが、貴奨学金のおかげで経済的な負担が減り、大変充実した大学院生活を送ることができております。研究活動では、発光材料として極めて優れた特徴を有し、次世代ディスプレイへの応用が期待されております、ペロブスカイト量子ドットに焦点を当てた研究を行っています。私は、本材料の実用化を目指した耐久性の向上に関する研究に着手しております。今年の9月に国内学会での口頭発表と、11月の国

際学会のポスター発表を予定しております。研究活動におきましては、貴財団の支援を基にさらに邁進して参ります。研究以外では、県内各地の温泉友人と巡ることを趣味とし、研究以外のメリハリをつけることを意識した大学生活を楽しむことができております。貴財団によるご支援に感謝し、今後もさらに充実した大学生活を送るよう心掛けて参ります。



山形大学大学院
理工学研究科修士2年

昨年度に引き続き奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。講義や研究活動など忙しい日々が続いておりますが、貴奨学金のおかげで経済的な負担が減り、大変充実した大学院生活を送ることができております。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

先日、無事に就職活動を終わりました。これを通じて自分と向き合い、学び、成長するきっかけとなったと感じております。専門分野とは異なる職種への就職ですが、大学院での学びや研究経験が役立つと思っております。新しい環境での挑戦に不安もありますが、社会に貢献できる人材となるべく努力していく所存です。

研究活動では、近頃ノーベル化学賞でも話題となった量子ドット、その中でも”ペロブスカイト量子ドット”という発光材料に関する研究を行っています。このペロブスカイト量子ドットを用いた次世代のディスプレイの実用化を目指し、日々試行錯誤や仲間とのディスカッションを繰り返しながら実験に邁進しております。

最後になりますが、改めてご支援に感謝申し上げます。残る半年の貴重な時間を大切に、本当の意味で充実した大学院生活を送るよう心掛け、社会に貢献できる人材として成長してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



京都大学大学院
工学研究科修士2年

私は土や地盤に関する幅広い現象を扱う研究室に所属しており、数値解析上で土石流の挙動を評価するというテーマの研究を行っています。学部時代には別のテーマに取り組んでおり、ひたすら実験を何ケースも行っていました。実際に実験装置や計測機器を操作したり、本物の砂材料に触れたりすることでしか得られない学びもたくさんありました。しかし、大学院では打って変わって、コンピュータと向き合って解析をしており、プログラムを修正したり、モデル化方法を検討したりしています。

来年度には就職することが決定していますが、学生時代に実験と解析のそれぞれがメインのテーマの両方に取り組むことが出来て、良かったと思っています。物事を検証していくには様々な角度から見る必要がありますが、その際実験的視点と解析的視点のどちらも活かし、総合的に良い判断が出来ることを目指していきたいと考えております。

土石流に関しては、様々な方法で土砂をモデル化する方法が提案されており、その妥当性検証も多く行われています。しかし、土砂の土粒子と水が分離可能なモデルとして評価した例は少なく、私たちはその手法で解析的検討をすることを試みています。分離可能なモデルとすることで、斜面上で土粒子が停止して水だけが減速せずに流れるという現象の評価が可能になります。また、それが土石流流出範囲の抑制にあたりどのような方策が有効か検討する契機となります。

最後になりますが、昨年度に引き続き、奨学生として採用いただきありがとうございます。研究生生活で培った力を活かし、社会に貢献できる人材となれるよう精進して参ります。



早稲田大学大学
院創造理工学研究科修士2年

卒業を控えて、私はさまざまな準備を進めています。大学生活の終わりが近づくにつれ、感慨深い思いと新たな一歩への期待が入り交じる日々を過ごしています。二年間の大学院生活はあっという間に過ぎ去り、学業やサー

クル活動、アルバイトなど、さまざまな経験を積んできました。これらの経験は私にとって大きな財産となり、これからの人生においても貴重な糧となることでしょう。

卒業論文の作成は特に大きな挑戦でした。テーマ選びから資料集め、データ分析、そして文章の構成まで、一つ一つのステップを丁寧に進めてきました。この過程で、自己の研究能力を高めるとともに、忍耐力や問題解決能力も養われました。指導先生やゼミの仲間たちの助言を受けながら、自分なりの考えを深めていくことができたのは非常に有意義な経験でした。

また、卒業後の進路についても考えを巡らせています。就職するか、さらに学びを深めるために大学院に進学するか、多くの選択肢があり迷うこともあります。どの道を選ぶにせよ、これまで学んだことを活かし、社会に貢献できるよう努めたいと考えています。そのためにも、自己研鑽を怠らず、常に学び続ける姿勢を持ち続けることが重要だと感じています。

卒業は一つの節目であり、新たなスタートでもあります。大学での学びを通じて得た知識やスキルを、これからの人生でどう活かしていくかが問われる時です。友人や家族、先生方への感謝の気持ちを忘れず、自分の夢や目標に向かって歩み続ける覚悟を持っています。卒業式が近づくにつれ、キャンパスでの思い出が頭に浮かびます。友人たちと過ごした楽しい時間や、困難を乗り越えた達成感など、どれも忘れがたい思い出です。この経験を胸に、新たな世界へ飛び立つ準備を整えています。これからの人生も、大学生活と同じように充実したものになるよう、自分を信じて頑張りたいと思います。



横浜国立大学大学院
理工学府博士1年

前文の書き出しというのは非常に困るもので、この一文を書くのに2、3回ほど消すことになりました。会話で言えば、いわゆるアイスブレイクに相当する一文なのですがこれがとにかく苦手です。研究室の後輩や同僚とも愚痴をこぼしたのですが、まず入りが難しいんです。知り合いの人間であれば、適当に最近どうだったなどの近況を訪ねればまあ悪くないでしょうが、見知らぬ他人に対してやあどうだったなどと尋ねれば、まあおそらく気味悪く思われて

終わりでしょう。双方の心に傷が出来るだけなわけです。

ところが、この学年になると避けて通れないイベントがあります。そう、学会発表ですね。現状、私は口頭発表をしていないため、学会発表と言えばポスター発表になります。ポスターなので、聴衆の方が行儀よく見てくれるわけではありません。自分の研究に興味を持って見てくれる人もいれば、一応遠回しに見ておくかみたいな人もいるわけです。研究者としてという大仰になりますが、基本的には自分の研究を面白いと思って発表に来ているわけです。出来れば多くの人に見てもらいたいと思うのは当然だと思います。ところが、いかんせん自分の研究は見目が良くありません。境界領域の研究であるので、発表分野の専門外の情報を多量に含むことが往々だからです。なので、ポスターのビジュアルとしての訴求力が弱いわけですね。となると、発表でカバーしたいところです。

ここで前段落のアイスブレイクが苦手という話に戻ってきます。要は聴衆を惹く能力に欠けているわけですね。分かりやすい説明なら大抵聞くと豪語している方もいますが、経験上専門外の話になった瞬間理解を放棄する人が大半です。どうにかならんもんかといわゆる会話デッキを模索しているんですが、なかなか見つからないんですよ。何かご存じありませんか？

以上3段落がアイスブレイクになります。苦手なのが分かってくれるといいんですが。(791)



東京大学大学院
農学生命科学研究科応用生命化学専攻
生物化学研究室博士2年

昨年度に続き、奨学生としてご採用いただき、心から感謝申し上げます。私はフェロモンによって引き起こされるマウスの社会行動の研究をしています。特に、性経験のない雄が見知らぬ子に対して攻撃をする、子殺し行動に着目しています。子殺し行動は齧歯類から霊長類までの広範な動物種で見られますが、その生物学的意義には疑問が残されています。また、雄マウスが父親になると子に対して攻撃行動ではなく、養育行動を示すようになりますが、このようなダイナミックな行動変化のメカニズムについても完全には解明されていません。これまでの私の研究で、子マウスに応答するフェロモン受容体を同定しまし

た。現在は、このフェロモン受容体を介した感覚入力により、子殺しが誘起される神経回路の同定を試みています。さらに、性経験のない雄が父親になる過程で、子マウスフェロモンの情報処理がどのように変わるかを検証しています。

博士を出るまでの残り期間を考えると、結果を早く出すことに焦りを感じることもあります。純粋にサイエンスを楽しむ気持ちを忘れずに研究をしていきたいと思っています。幸い研究室の先生や先輩、後輩には恵まれ、時間を忘れて研究のディスカッションをしたり、将来やりたい研究の話をしたり、面白いと思った論文の話をしたりすることができて刺激的で幸せな研究生活を送っています。博士課程を出た後の行き先は決まっていますが、自分の研究をまとめつつ、国際学会などの機会将来のポスドク先を探したいと思っています。リスクな将来設計かもしれませんが、今のところ一番楽しいと思えることが研究なので、納得がいくところまで自分の興味を突き詰めようと思います。

最後になりますが、古河記念基金の皆様のご支援のおかげで学業に専念できましたことに心よりお礼申し上げます。ご期待に応えられるよう、これまで以上に励んでまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。



帝京平成大学
薬学部5年

昨年より準備期間を経て、2月から現在まで長期の薬学実務実習を行っております。実務実習は、薬局と病院へ11週間ずつ行き、薬剤師の業務を体験したり実際に患者さんに関わって治療支援に参加したりする薬学部5年生のカリキュラムのひとつです。実習が始まった頃はコートを着て寒さと緊張に震えていましたが、いつの間にか暑さ厳しい毎日に雨風も恵みであると気付かされる季節となり、日々の充実を感じています。2月からは2つのクリニックが目前にある薬局にて、5月からは急性期の民間総合病院にて実習をさせていただいております。薬局では、調剤室で薬を取り集めたり秤量したりする調剤業務だけでなく、カウンターにて患者さんへ服薬指導を行い薬歴と呼ばれる電子記録へ指導内容を記載する業務を体験させていただいております。病院では、主に入院中の

患者さんや外来で治療を受けている患者さんの元へ伺い、治療経過の聞き取りや服薬指導を行い、電子カルテへ記載する業務を体験させていただいております。実習を通して、私は座学から実践へ具体的なイメージを持って知識を得ると共に理解を以て技術を身につけることを目標に日々勉強しています。また実習での体験から、私は薬剤師として患者さんからも共に働く仲間からもあなたに任せたいと言って貰えるような人になりたいと強く思いました。そのために、残りの実習期間を通して臨床現場で働く薬剤師とそこで関わる様々な職種の役割と連携を見て学びたいと思います。また、実習終了後もこの経験を活かして研鑽に努めたいと思います。



立命館大学大学院
薬学研究科薬科学専攻修士2年

今年度も貴基金の奨学生として採用して頂き、ありがとうございます。

さて近況報告ですが、昨年6月頃から始めていた就職活動を今年3月に終えることができました。医薬品や食品企業の研究職を志望していたため、かなり厳しい就職活動とはなりましたが、何とか内定を頂くことができました。この就職活動を通じて、自分としっかり向き合って出した答えが、“やっぱり研究をするのが好きだ”ということでした。これまでの研究室での成果を振り返ると、8割は失敗、残りの2割が成功といえるほど、成果が出るまで苦労しました。それでも、“研究”が嫌いにならなかったのは、試行錯誤している瞬間が楽しいと思えたからだと考えています。内定を頂いた企業では、マウス実験が全く行えない為、これまで苦労して手に入れたマウス実験の手技を手放すことになってしまうことを残念に感じています。しかし同時に、新たな実験手技を身に付けるチャンスでもあると前向きに捉えています。

私が研究活動および就職活動に専念できているのは、ひとえに貴基金からの援助によるものだと考えています。日頃よりご支援いただき、ありがとうございます。現在の研究活動も残り半年となりますが、修士を卒業するまでに何とか論文を執筆できるように頑張りたいと思います。

近況報告は以上になります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



大阪大学大学院
工学研究科博士1年

この度は昨年度に引き続き奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

この春から博士課程に進学し、より一層研究に励む毎日を送っています。学部4年の時から所属している研究室で、有機分子のみで構成された多孔質材料の作製や物性評価を行っています。修士から続けているテーマをより高度な領域に発展させようといういろいろ実験計画を練っているところです。論文の執筆も行ってはいますが、なかなか難しく、研究者としての活動の大変さも痛感しています。また、今年度から研究室の中で最高学年の学生となり、さらに増えた後輩の指導方法に悩むこともありますが、ともに仲良く楽しく過ごしています。後輩とごはんやスイーツを食べに行ったり、研究室の居室で料理パーティーを開催したり、カラオケに行ったりと、日々の研究生活の息抜きにおいてもかわいい後輩たちの存在が大きくなっています。

今年が奨学生6年目であり、長い間ご支援いただいたこと、本当に感謝しております。金銭的な不安がないために、研究活動だけでなく、プライベートも非常に充実した生活を送っております。奨学期間満了となる来年3月まで、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



東京農工大学大学院
工学府機械システム工学専攻博士2年

はじめに、この場をお借りして古河記念基金の皆様からのご支援に御礼申し上げます。

さて、本報告では私が取り組む研究と進捗について報告します。私は現在、プラズマを用いた流体制御デバイスの性能向上に向けて、実験とシミュレーションの両面から研究に取り組んでいます。プラズマを知らない方のためにプラズマの応用例を挙げますと、医療技術や機械加工技術、身近では空気清浄機の除菌技術などがあり、プラズマが私たちの生活に広く利用されていることを理解していただけたと思います。ここ十数年の間には、プラズマを用いた流体制御技術に関する研究が盛んにおこなわれ

ており、省エネルギー化の観点から大きな注目を集める研究分野となっています。私は高速移動物体の抵抗低減を目的として、プラズマを用いた流体制御デバイスの性能向上に関する研究に取り組んでいます。今年度に入ってからこれまでの期間は、実験データの取得に力を入れて研究に取り組んできており、数か月前には共同研究先の実験設備を借りて実験データを取得することができました。また、実験と同時並行でシミュレーションを進めており、10月には関連研究者と議論をするため海外大学に短期留学する予定です。さらに、11月にはこれらの研究成果を発表するべく国際学会に参加する予定です。博士前期課程の間に多くの経験を積んで、研究活動を推進するための基礎を身につけたいと思います。

以上をもって簡単ではございますが近況をご報告申し上げます。



金沢大学大学院
自然科学研究科地球社会基盤学専攻
修士1年

この度は昨年度に引き続き奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

現在、私は地球温暖化の影響を受けて変化する台風や爆弾低気圧の将来的な強度や発生数の変化を解析する研究に取り組んでいます。地球温暖化によって、強力な熱帯低気圧が増加することが予測されており、特に沿岸域における高波・高潮のリスクが高まることが懸念されています。この研究では、日本周辺の台風および爆弾低気圧の過去のデータを解析し、これらの災害が将来的にどのように変化するかを定量的に評価することを目的としています。具体的には、日本の沿岸域を通過する台風および爆弾低気圧の観測データとシミュレーションデータを比較し、強度や発生頻度、進路の変化などを解析しています。また、沿岸域の被害リスクを評価するために、高潮の最大潮位偏差の変化や海面水位上昇の影響も考慮しています。

研究の合間には、小学校時代に習っていたピアノを再び始めました。学部時代はフィルハーモニー管弦楽団でクラシック音楽を中心にバイオリンを弾いていましたが、現

在はピアノで自分の好きなJ-POPを楽しんでいます。クラシックとは異なり、J-POPの楽曲はリズムやメロディが多様であり、自分の表現の幅を広げることができると感じています。また、ピアノの練習は自宅でイヤホンを使用して行うことで、音を気にせず集中して取り組めるため、非常にリラックスできる時間となっています。

以上、簡単ではありますが、私の近況報告とさせていただきます。



慶應義塾大学大学院
理工学研究科修士2年

日頃より格別のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私は今学期修士論文の執筆に取り組み、七月末に審査会がございました。学部時代には風力発電に関する研究を行っておりましたが、一年間のイタリアへの留学を経て、修士では新しく水中ドローンに関する研究に取り組みました。水産業や洋上風力発電をはじめとする海洋産業の発展と効率化のため、ダイバーに代替する水中ドローンの開発が進められています。水中ドローンは、空中ドローンと比較して未だ研究例の少ない分野であるため、私は既存の空中ドローンから着想を得て機構をデザインしました。高機動性と高エネルギー効率実現のため、従来よりも少ないスラスターの数で航行する機構と機体の安定性を確保する制御系を考案しています。最終的には、本研究の成果をもって豪州にて開催される国際学会に参加することを目標としています。

末筆ではございますが、記録的な円安に見舞われながらも一年間の留学に挑戦し、学部から修士まで充実した学生生活を送ることができておりますのは、ひとえに皆様方のお力添えのお陰でございます。改めまして、衷心より感謝申し上げます。



慶應義塾大学大学院
理工学研究科基礎理工学専攻博士1年

早いもので新年度が始まって4ヶ月ほどが経ちました。今年猛烈な暑さが日本列島を襲い、私自身日々汗をかきながら生活しております。近年のこの暑さを体験すると、日本の四季はいつまで保たれるのか不安になります。早く過ごしやすい気候になることを切に願うこの頃でございます。

私は本年度より後期博士課程へと進学し、学位取得のために昼夜奮闘しております。本年は自身が第一著者としてアメリカ物理学協会に初めて論文を出版することができました。不慣れなこともあり至らない点が多々ある状況でしたが、数多くの共同研究者のお支えがあってこそ論文文化に漕ぎ着けることができたと考えております。この経験を通して、研究のブレイクスルーは共同研究者とのコミュニケーションから生まれると改めて感じております。今後も共同研究者の皆様と協同し、新しい価値を生み出せるように邁進していく所存です。

今夏は国際会議での研究発表およびヨーロッパ諸大学への訪問を行う予定で、期間は約1ヶ月以上になります。これほど長期の出張は初めてのため、内心一抹の不安がございます。しかし研究技術や組織運営など多様な視点のもと、世界レベルの環境に身を置くことで更なる成長ができると考えると、胸を弾ませている自分もおります。粉骨砕身、食欲に学んでいこうと思います。

最後となりますが、日々厚いご支援を賜っている古河記念基金の皆様には厚く御礼申し上げますとともに、ますますのご多幸・ご健勝を心よりお祈りしております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



中央大学
理工学部3年

学部3年生になり今後の進路を考えていく時期となりました。現在私は大学院へ進学しようと考えているのですが、自分が興味のある分野を探りたいという思いから、前期の間にいくつかの就活イベントに参加し、都市に関わる仕事を中心に業界や企業について調べてみました。その結果、都市の再開発のような大きい規模の事業に計画の段

階から携わりたい、という思いをひとつ明確にすることができました。

また、カリキュラムの中で毎週学科のOB、OGの方のお話を聞く機会があり、ゼネコンや建設コンサルタント、公務員などの業界についてや経験談などを聞くことができ、自分の将来を考える良いきっかけとなりました。

今後の予定としては、まず夏休み期間中に、現場実習という科目として実際の建設工事現場を数ヶ所見学できる貴重な機会があるので、将来を考えるための有意義な時間にしていきたいと思っています。

3年後期になるとすぐに研究室配属があり、4年での卒業研究に向けて動き出します。そして、11月には技術士一次試験を受ける予定なので、そこに向けて勉強に取り組んでいこうと考えています。

最後となりますが、今年度も引き続きのご支援に心より感謝申し上げます。今後も勉学に励み、成長していけるよう精進していきますので、何卒よろしく願いいたします。



金沢工業大学
工学部情報工学科4年

昨年度から引き続きご支援いただき誠にありがとうございます。

私は現在、プロジェクトデザインⅢというカリキュラムによって研究室に配属され、ゼミ活動に参加しています。私の研究テーマは、「シーンごとの動作によるCMの分析」です。私は、先輩の研究について説明を受けた際に、映像や音楽などの要素を分析することで影響があるものを見つけようとしていることを知り、身近にあるがあまり意識されないCMでも研究されていることに興味を持ち研究に取り組んでいます。研究については、CMで行われている踊っているや走っているなどの様々な動作は、CMに影響を与える要素なのかを分析しています。研究活動が初めての経験であり、卒業する先輩から引き継いだツールが使用できず研究室の先輩に質問を行うこと、教授から研究について様々な指摘が行われるなどしていますが、9月に研究の中間発表会があるため、中間発表会での発表に向けて頑張りたいと思います。以上簡単ではございますが近況報告とさせていただきます。



東京大学大学院
農学生命科学研究科修士1年

最近の研究や就活で忙しい合間を縫って、サークルや友達との遊びにも勤しんでいます。5月には東大で文化祭があり、コロナで今まで行くことができなかったのと去年は運営側でずっと手伝っていて回れなかったのが、今年初めて行ってみました。私の学科は毎年、利酒企画という日本酒の飲み比べを無料で提供するという企画を行っており昨年は受付を手伝っていたのですが、今回は客側として行ってみました。正直わかるだろうと思っていたのですが、4個中2個が限界でした。その後に学科内で余った日本酒の消費会があったのですが、実はこれにも2回も参加しました。その他にもモルックに初めて挑戦したり、ラランドのトークショーに当選したのでそれに参加して質問したり、大学の文化祭を堪能しました。医学部が行っている占いがあったので本格的なものかと思って参加したら、よくある普通のやつだったのでガッカリしましたね。総じて日本酒が美味しくて幸せだったので、また来年も日本酒の飲みに行きたいです。



東京工業大学大学院
物質理工学院修士1年

昨年度につづき古河記念基金の支援を受けさせていただけることになりました。古河記念基金の皆様、誠にありがとうございます。

今年で修士1年生となり忙しい研究生活を過ごしております。有機化学の研究を行っており、遷移金属触媒を用いたカップリング反応について開発を進めています。初めは方針が立たず焦りや不安を感じるが多かったのですが、最近では良い反応が見つかり研究生活を楽しむことができています。また研究を通して専門外の知識を得ることも多く、知識の幅が広がっていくことにも喜びを感じています。しばらく忙しい日々が続くと思いますが体調に気をつけて研究に没頭したいと思います。

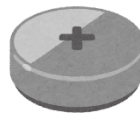
よろしくお祈りします。



中央大学
理工学部4年

私は今年4月から教員採用試験に向けて試験勉強と6月に教育実習を行いました。試験勉強では一般教養と教職教養、数学の専門教養の3つの分野が試験内容です。試験勉強ではどの内容も広い範囲の中で対策にとっても苦労しました。ですが、特に教職教養の教育心理は面白い内容が多く楽しみながら試験勉強に取り組むことが出来ました。教育実習は3週間高校で行いました。最初は慣れない仕事や授業準備の忙しさで辛い時もありましたが、授業中の生徒のいい反応や、生徒の喜ぶ顔を見れた瞬間は今までの努力が報われたと思えました。これから教員を目指すうえで教育実習は短い期間ではありましたが、とても貴重な経験となりました。

大学でも教職の授業では模擬授業を通して、生徒同士でどのような授業が望ましいのか、どこを改善すればいいのかなど、よりよい授業を行うために日頃から学んでいます。ここ数年では高校数学の内容が大きく変わっており、私たちが習っていない内容も増えているので、これからも数学の勉強は続けていかないといけないと覚悟を持って教員を目指したいと思っています。



公立諏訪東京理科大学
工学部4年

昨年度に引き続き、ご支援いただきありがとうございます。

私は金属空気電池についての研究を現在行っています。金属空気電池とは大気中の酸素を正極活物質として用いる電池であり、存在する電池の中で最もエネルギー密度が高い電池として知られています。酸素を取り込む空気極という機構に様々な課題がある中で、今は補聴器用のボタン電池のような小型での実用が限界になっていますが、空気電池を使用できる幅を広げるために実験を行っています。研究室で同じく空気電池の研究をされている大学院生の先輩の活動や発表を聞いて、自分の不十分さを日々痛感しています。冬の学会で発表することを目標にしていますが、研究に対する理解度や測定した

データの量がまだ少ない状況なので、発表の練習やデータ取得を頑張っています。

来年4月から社会人の一員になるので、最後の学生生活では社会人に相応しい能力を鍛えながら、自分に足りない部分を自覚する時間として、有意義に過ごしていきたいと考えています。今後とも何卒よろしくお願い致します。



京都大学大学院
理学研究科生物科学専攻博士1年

今年4月から、修士時代に所属していた研究室で博士課程に内部進学しました。春頃に自身を筆頭著者とする研究論文が国際誌に受理され、ようやく研究者としての第一歩を踏み出すことができました。現在は2本目以降の研究を進めるとともに、今年秋に米国で行われる国際学

会での発表に向け準備をしています。修士学生時代は研究のいろはを教わりながら言われたことを実行するように務めていましたが、現在は後輩の指導をしながら、自ら立案、計画し、ある程度は自身の裁量で動くことが要求される段階に移行したと感じます。私は元々、その場の思いつきで行動してしまう性格なので、より大局を見据え戦略を練ることを意識し習慣づけようとしています。研究室ではたいてい顕微鏡かPCモニタの小さな枠内を覗きこんでいるので、休日は景色のよい場所に出かけることが多くなりました。私の住んでいる京都は比叡山を借景に据えた庭園を有する寺社が幾つかあり、手前側の庭と背景の山の調和にはたいへん感銘を受けました。

最後になりましたが、奨学生として長らくご支援いただき誠にありがとうございます。ご厚意を無駄にせぬよう努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

卒業生から後輩、古河グループへのメッセージ

2023年度をもって奨学生を終えた方々から、後輩の奨学生や、古河記念基金を支援していただいている古河グループの方々へのメッセージです。

(金沢工業大学)

古河グループの皆様のご支援のおかげで学業や研究活動に専念することができました。

今後、社会に貢献できるよう精進していきたいと思います。

今まで本当にありがとうございました。

(東京大学大学院)

大学の学部から大学院にかけて長い間ご支援頂き、誠にありがとうございました。コロナ禍、アルバイト等も難しい状況となりましたが、経済的な心配もすることなく、学業に専念することができました。大学や大学院の研究では、秘密計算や系統ネットワークといった対象について、効率的なアルゴリズムの提案や解析を行いました。自分の分野以外についても、研究室の方々と積極的に議論し、有意義な時間を過ごすことが出来ました。全てご支援の賜物と感謝しております。後輩のみなさんには、視野を広げるため、財団が企画して下さるイベントには是非積極的に参加してみてください。

(東京工業大学大学院)

これまでご支援ありがとうございました。修士2年から博士3年まで、非常に大きな助けとなりました。今後は博士課程で培った能力を活かして社会に役立つモノを作りたいと思います。大変なことが多いと思いますが、奨学生の皆さんは1秒1秒を大切にしてお勉強に励んでください。私も頑張っていきたいと思っています。

(熊本大学大学院)

二年間ご支援いただき、誠にありがとうございました。おかげさまで大学院での二年間、研究活動に集中して励むことができ、多くのことを学びました。私はこれまで機械材料およびその加工法などについて研究を行ってきました。その過程で実験を何度も行い、その都度の実験の反省を次に活かすといったトライアンドエラーの大切さを学びました。来年度から社会人となりますが、古河グループの方々へのご恩を忘れずに、グローバルに活躍できるエンジニアとなり、沢山の人の生活に貢献していきたいと思っております。これまでのご支援、誠にありがとうございました。

(慶応義塾大学大学院)

この度は古河記念基金の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございました。社会人となりますが、これからも新しいことを学びつつ、社会に貢献していきたいと存じます。後輩の方々もぜひ頑張ってください。最後に、自分の学業に応援して下さった古河記念基金の皆様に心から深く感謝申し上げます。

(岡山大学大学院)

4年間に亘り奨学金を支給いただき、誠にありがとうございました。

古河記念基金様からの奨学金支給のおかげで、学業に専念できる環境が整い、大変助かりました。大学生活を送る中で、古河記念基金様のご支援があったからこそ、安心して研究活動を続けることができましたし、様々な学びや経験を積むことができました。

就職先での業務や研究活動においても、頂戴した奨学金の意義を常に心に留め、精一杯努力して参ります。

末筆ながら、古河記念基金様のますますのご繁栄とご発展を心よりお祈り申し上げます。

(東北大学大学院)

この度、2024年3月に東北大学の修士課程を無事に修了することができ、4月より新社会人となることができました。貴財団の奨学金のおかげで、充実した学生生活を送ることができました。学びの機会をいただけたことは、私の人生にとってかけがえのない経験となり、自分の夢に一步近づくことができたと感じております。卒業後は、建設とITを結ぶ分野での仕事を予定しております。革新的な技術を活用し、より効率的で持続可能な建設ソリューションを提供することを目指しております。奨学金の支援があったからこそ、こうした目標に向かって進むことができると実感しております。本当にありがとうございました。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

事務局から

2024年度奨学金支給決定書交付会が開催されました

6月25日(火)12時から、東京大手町の古河三水会会議室において開催され、昼食を含め約1時間半行われました。

5月の選考委員会で確定した奨学生54名(新規10名、継続44名)のうち、21名(うち外国人留学生1名)が授業等の合間を縫って出席、古河記念基金からは吉田政雄代表理事(古河電気工業(株)名誉顧問)、石山喬様(日本軽金属ホールディングス(株)元社長)、相馬信義様(古河機械金属(株)名誉顧問)、橋本卓業務執行理事の4名が出席されました。

吉田代表理事からの当基金設立の趣旨や経緯の紹介と激励のお言葉で始まり、奨学生の自己紹介の後、昼食・懇談と続きました。昼食後、吉田代表理事より出席者全員に一人ずつ、奨学金支給決定書が手渡されました。続いて、奨学生が、研究テーマや学生生活などについての2分間スピーチ、最後に、石山様、相馬様からご挨拶があり、奨学生に対する祝福と期待の言葉が送られ終了しました。全体を通し、奨学生同士の会話も弾み、和やかな会となりました。

2023年度の寄付金について

2023年度は、古河三水会、グループ会社の他、グループ会社の関係者(個人)の方々から、合計で89万5千円の寄付金を頂きました。皆様のあたたかいご支援、本当にありがとうございます。

2024年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2023年度 寄附者一覧

受領日	氏名
2023年4月～2024年3月	守田 寛 様
2023年5月30日	橋本 卓 様
2023年6月2日	射場 孝 様
2023年7月31日	宮川 尚久 様
2023年7月31日	中戸川 稔 様
2023年7月31日	荻野 正浩 様
2023年7月31日	酒井 宏之 様
2023年7月31日	今野 光一郎 様
2023年7月31日	井上 一夫 様
2023年7月31日	三影 晃 様
2023年7月31日	高野 厚 様
2023年7月31日	宮嶋 健 様
2023年7月31日	岩間 和義 様
2023年7月31日	山川 健司 様
2023年7月31日	栗田 憲一 様
2023年9月12日	沢 邦彦 様
2023年12月25日	高桑 真樹 様
2024年2月28日	本多 一顯 様

その他、匿名でご寄付いただいた方 2名

古河記念基金へのご支援のお願い

古河記念基金は、設立以来、延べ 3,400 人の経済的に困難な学生に奨学金を支給し、学業・研究の場を与えられるよう支援して参りました。

従来から古河グループの皆様には温かいご支援をいただいておりますが、2023 年度以降、個人寄付者数が大きく減少しております。

当基金は、税額控除制度が適用される法人として認定されておりますが、認定継続には、一定の寄付者数を確保・継続していく必要があります。

つきましては、これまで以上に、皆様の強く温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

◎寄付の申し込み方法

「寄付申込書」を以下のサイトからダウンロードいただき、事務局宛にお申し込みください。

「一般法人・公益法人等情報公開 共同サイト」

<http://www.disclo-koeki.org/08a/00991/index.html>



「寄付申込書」および「ご入金の確認」ができ次第、寄付金受領証明書(税務申告書類)等をご送付いたします。

公益財団法人 古河記念基金

東京都千代田区大手町 2-6-4

常盤橋タワー(古河三水会内)

電 話:03-6262-0804

FAX:03-6262-0806

メール:kinkenikin@furukawa-sansuikai.gr.jp